

## 自己評価報告書

令和元年度 日本橋中学校 自己評価報告書							
学校（園）名：	日本橋中学校	所在地：	中央区東日本橋1-10-1				
校（園）長名：	平野 雅仁						
児童（生徒）数	353	学級数	11	教員数	20	職員数	24
1 重点目標の達成状況及び取組状況							
重点目標1							
「生徒一人一人を大切に学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。」							
学力向上に関しての取組の評価として							
・授業の進み方、授業時数の確保、授業規律の徹底については、肯定的評価を得られている。ただし、生徒の20%は、進み方に問題をもっている。20%の生徒の追跡調査が必要である。							
・授業内容等の質に関する部分では、教員、生徒は、75%を超える肯定的評価であるが、保護者は約60%と低い数値。これは、授業について「分からない」と回答する保護者が約15%だったのも、理由として考えられる。							
・サプリノートの取組や家庭学習に関しては保護者の肯定的評価の割合が70%を超えている。ただし、生徒は60%にとどまっており、内容の再検討などさらに改善の余地がある。今後も家庭との連携を密にした自学・自習の取組も進めたい。							
重点目標2							
「暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。」							
・いじめ、不登校等問題行動の早期発見についての評価は、保護者75%、生徒81%とする回答である。今後も生徒一人一人を大切にされた対応をさらに進め、肯定的評価をさらに高めていきたい。わかりやすいアンケートの項目分けが必要である。							
・道徳については、話し合い活動を充実させた結果、三者の肯定的評価の割合が上がり、生徒の66.4%がA評価で充実感を感じた。							
・運動会等の行事に関しての肯定的評価が三者とも90%以上で、充実した活動を通して多くの生徒が達成感を味わうことができた。							
・委員会活動への取組では、約85%となり、今後も生徒会主催の清掃ボランティアや募金活動が広く生徒全体に定着することを期待したい。							
重点目標3							
「日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、							
将来展望性をもたせる活動を充実させる。」							
・オリパラ教育に関しは、保護者の肯定的評価が低く、「わからない」と回答した割合が15%と高かった。今年度は、開催年としても取組内容を充実させ周知したい。							
・キャリア教育に関する設問は、生徒にとっては、90%以上の肯定的な回答で、充実した取組になっていたと言える。今後も保護者には広く公表していきたい。							
・体を動かす機会の充実には課題意識のある生徒が多く、今後も昼休みの体育館開放など運動機会の少ない生徒の意識や体力向上を目指したい。							
・外部講師による将来展望性に関しては三者とも75%以上の肯定的評価だったが、今後							

も生き方のお手本となるアスリートや文化人の講演会等を開催していきたい。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が80%を超えたのが、

- ①教員の対応や言葉遣い(95.0%)
- ②学校公開等の情報公開(94.3%)
- ③生徒の学校生活の様子(90.4%)
- ④保護者の学校行事への参加のしやすさ(89.4%)
- ⑤学校の通知文(89.0%)
- ⑥規範意識や思いやりの心の育成(85.5%)
- ⑦学校への相談のしやすさ(85.5%)
- ⑧教員の生徒への接し方(85.1%)
- ⑨安全対策(83.6%)
- ⑩学校・家庭・地域の連携(83.3%)

と20項目中10項目あった。

また否定的評価の割合が20%を超えたのが、

- ①基礎学力の定着への取組(26.3%)
- ②コンピュータの活用(22.8%)
- ③生徒の地域行事への参加(22.0%)
- ④評価の在り方(20.6%)
- ⑤保護者の教育活動への関わり(20.5%)

と5項目あり、引き続き教育活動を充実させていきたい。

## 3 今後の改善方策

- (1) **少人数指導・個に応じた指導の充実**…学力向上に関しては、保護者の関心が高く課題意識が他の項目に比べて高い数値である。区講師を活用した少人数による授業を充実させるとともに、一斉指導における個に応じた指導を丁寧に行うことを各教科で徹底し、更なる学力向上に努める。
- (2) **学校評価の在り方の改善**…今年度学校評価の在り方を検討し、生徒の学校評価を終え、その結果を保護者に伝えた後に保護者アンケートを実施した。その結果、保護者アンケートの回収率が前年85%に上昇したものが前年に比べ、10ポイント下降した。また「分からない」と回答した割合が、11%から17%に増加した。改善の必要がある。
- (3) **新しい教育課題への対応**…ICT教育、道徳の教科化、特別支援教育等の本校の解決すべき教育課題を明確にし、その解決に努めるカリキュラムマネジメントを充実させる。